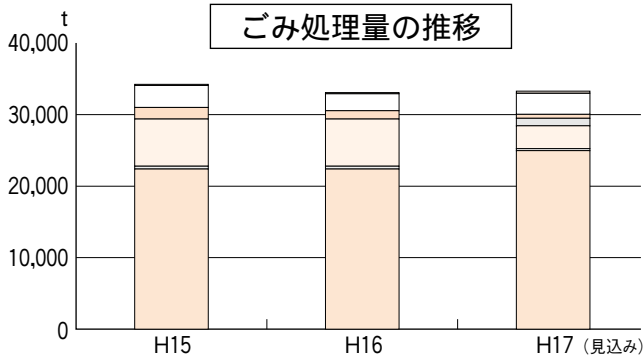


今年度の廃棄物処理予定量は、約34,000トン(1世帯当たり約1.1トン)



	H15	H16	H17 (見込み)
たい肥	344	288	350
資源ごみ	3,917	3,266	4,000
粗大ごみ	999	866	400
破碎ごみ			1,000
埋め立てごみ	6,622	6,954	3,000
塩ビごみ	504	488	200
燃やせるごみ	22,310	22,112	25,000
合計	34,696	33,974	33,950

こんなごみは持ち込めません



減量するための ごみ処理技術

持ち込まれたごみは、焼却することで約10%まで減量されます。この施設では、灰を溶融スラグに変えることで、さらに5%まで減量しています。スラグは、無害で安定した材質を保っており、毎月一定量が確保出来ることから、建設用資材などに再利用する取り組みが進められています。今後のJIS (日本工業規格) 基準整備が待たれています。

最高レベルの安全性

この種の施設には、国が定める排ガスの排出基準が設定されています。大館クリーンセンターでは、硫酸化合物、塩化水素、窒素化合物、ばいじん、ダイオキシンなど全ての項目で、

国の基準よりも厳しい市の基準(2ページ参照)が設定されており、試験運転中の性能試験の数値(特にダイオキシン)は、けた違いの性能を示しています。さらに毎日の運転状況は、管理している事業者はもちろん、市の生活環境課でもリアルタイムで監視しており、独自に設定した安全基準を超えた場合は、ただちに運転を停止出来る、最高レベルの安全性が確保されています。

何でも燃やせるわけでは ありません

大館クリーンセンターの本格稼働に伴い、ごみ分別が変わりました。その内容は、これまで燃やせなかったものを少しでも多く燃やして、最終処分場への埋め立て量を減らそうというものです。決して何でも燃やそ

分別が効率を高める

その一つは「分別の不徹底」です。ペットボトルなどが大量に混じると、大量の燃焼ガスが発生するため、ごみの焼却スピードが大きく下がります。また、金属などが混入すると処理施設の劣化や故障につながることもあり、整備や点検のための運転停止を余儀無くされる場合もあります。安全で効率的なごみ処理のために、確かな分別にご協力をお願いします。

産業廃棄物は 持ち込めません

繊維くずや廃プラスチックなどの産業廃棄物は、大館ク

ンセンターに搬入出来ません。また、事業所から発生する「事業系ごみ」は、事業者自らが搬入し、有料で処分することになります。

最近特に、燃やせるごみの中に大量の「塩ビごみ」や「廃プラスチック(産業廃棄物)」が混入しているケースが多く、一般廃棄物の焼却に大きな影響を与えています。

最終処分するごみを 少なくしましょう

発生したごみは決して無くなりません。最先端の処理をしたスラグも、現在は産業廃棄物として処分しています。

再利用に取り組むことはもちろんですが、発生するごみが少しでも減少するように、みんなで取り組むことが大切なのではないでしょうか。